

こんな活動しています！

こばまの令和2年度活動の一部を紹介します。



生駒高原グランピング実証実験

生駒エリアの滞在型観光の可能性を探る実証実験として「アウトドア・ワーケーションリゾート in 生駒高原」を実施。仮設のグランピングエリアや、湧水など地域資源を活用したアクティビティのコンテンツを造成。県内モニター参加者の評価も高く、地域資源を活用した新たな観光につながる実証実験となりました。

※詳細は12ページに掲載



市内企業とのコラボ商品開発

霧島連山の麓の雄大な自然の恵みを受けて育った、質の高い農畜産物の魅力を最大限生かすため、生産者・事業者・販売者を繋いで、新しいお土産や特産品の開発に取り組んでいます。



中心市街地にぎわい創出イベント

まちなかの、にぎわいを創出するため「ハロウィンウォーク&ナイト」のイベントを開催。コロナ対策を重視し、少人数で開催できるイベントのモデル事業となりました。

街地の衰退は小林市全体の衰退につながりかねないと、平成26年5月に市内経済界・地元産業の団体・個人が集まり「小林市中心市街地活性化協議会」を設立、中心市街地の再生にむけた協議を行いました。そして、商業施設跡地の再開発をはじめ、中心市街地の活気を取り戻すために、商工会議所、地域の民間企業・有志が出資し、同年11月「小林まちづくり株式会社」が誕生。この活動を行政も支援すること、「民間の視点」と「公共性」の両面の機能を持つ組織として活動が始まりました。

事業で得た利益をまちづくりに還元

小林まちづくり株式会社は、通常の株式会社と同様に、取締役社長をはじめとした役員があり、重要な事項は株主総会で決定されています。しかし、同社の利益は、出資者ではなく、あらゆるかたちで「まち」に還元することを目的としています。現在は、10人の社員が、それぞれ

れまちづくりの担い手として市街地開発、特産品開発事業、にぎわい創出事業を展開。市内産品の販売促進事業など、中心市街地に限らず地域全体の活性化も図っています。民間企業の経営力を応用し都市経営を行ううえで、固定概念にとらわれない新たな事業展開を経営方針とし、市民の「まちへの願いや想い」を受け止め、活力に変える事業を行っています。

まちづくり会社とは

活気のあるコンパクトなまちづくりを推進することを目的とした会社のこと。全国各地に多数設立されている中で経営形態や、主体とする事業は市町村によりさまざまです。建物や設備を整備する会社や、イベント主催に注力する会社などもあります。



特集 小林まちづくり株式会社

平成26年、市のまちづくりを担う新たな会社として、地元企業などの出資により設立した「小林まちづくり株式会社」、通称「こばまち」。その取り組みはTENAMUビルに代表される施設の運営から、観光商品の開発まで多岐にわたります。今回は、こばまの設立の背景と今、そしてこれからどこへ向かうのかを紹介します

中心市街地の活性化が目的 平成26年「こばまち」設立

小林まちづくり株式会社は、小林市の活性化を願う市民や企業を中心に、商工会議所、宮崎銀行、市の出資を得て、平成26年に誕生した民間企業です。最大の特徴は、民間企業の「経営力」と、利益をあらゆる形でまちに還元する「公共性」。一つの企業や行政ではできない、まちづくりの分野を推し進める役割を期待されています。

設立の背景には、中心市街地の衰退があります。店舗の郊外化や大型化、消費者の購買行動の変化などがあり、また、平成25年の中核的商業施設の閉店は設立の大きなきっかけになりました。中心市



TENAMUビルはオープン以来多くの市民の憩いの場となっています（写真はオープン当初）

TENAMUビル

まちなか複合施設「TENAMUビル」は、小林まちづくり株式会社が、中心市街地活性化の拠点として建設。平成29年12月9日にオープンしました。1階にはスーパーマーケット、2階は交流スペースのほか、小林商工会議所などが入るオフィススペース、3階から5階は賃貸マンションとなっています。



小林に暮らす人の想いを活力に変える

「まちづくり事業部」「観光推進部」の2つの部署で、10人の社員が幅広い事業を展開する「こばまち」。中には、私たち市民の生活や仕事とつながっていることも多くあります。それぞれの部署の業務と目指していることを聞きました。

- 小林まちづくり株式会社
社が取り組む事業内容**
- まちづくり事業**
- ◆ マネージメント機能
複合施設の開発、テナント賃貸、ビル管理
 - ◆ 市街地エリアの整備
商業施設跡地周辺整備
 - ◆ イベント・賑わいの創出
観光交流センターの活用、空き店舗の活用、まちなか情報発信
 - ◆ 物販・飲食事業
地域資源・産品の商品化・販売
 - ◆ 各種受託事業
ふるさと納税お問い合わせセンター業務などのソフト事業受託
- 観光推進事業・DMO**
- ◆ 着地型商品の企画・開発
 - ◆ 観光イベントの収益化に向けた企画・開発
 - ◆ 観光ムービーによる地域資源の発信
 - ◆ インバウンド誘客の企画・開発
 - ◆ 市民の観光アイデア実現化に対する支援

観光推進部

小林市の魅力を世界に広めるため猪突猛進



ツアーイベントの様子

● **国内外の旅行者に小林の魅力を発信**

国内への観光推進事業として、団体向けのバスツアーや、個人旅行者向けの体験プログラムの企画などを行っています。また、観光地域づくりとして、地域におけるマーケティング事業も実施しています。

インバウンド事業では訪日外国人向けの情報発信を始め、ツアープランニングや通訳などのアシスト業務も行っています。

コロナ禍の今は、直接的な往来が難しいため、ホームページや交流サイトなどを活用して、多言語（日本語、英語、ドイツ語、フランス語）で市の魅力発信に努めています。



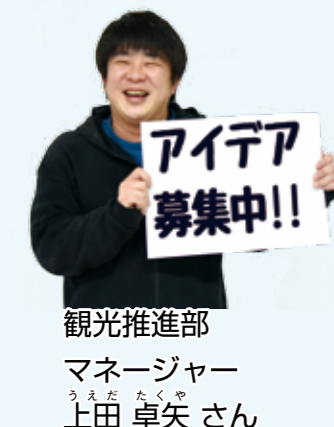
観光推進部
千田 知佳 さん

● **新しい可能性を生み出す商品開発**

地域の生産者・事業者・企業を繋げて、新しいお土産や特産品の開発に取り組むための橋渡しをしています。

● **農家民泊・田舎ぐらし体験を提供**

小林市、えびの市、高原町で組織する『北きりしま田舎物語推進協議会』は農家民泊体験・田舎暮らし体験を提供する団体で、その事務局として活動しています。毎年、関東地方の学校の修学旅行生などに民泊体験を提供しています。昨年は受け入れができませんでしたが、アフターコロナに向けて引き続き田舎体験の良さを発信していきます。



観光推進部
マネージャー
上田 卓矢 さん

「こんなツアーが楽しそう!」「私の所でこんな体験できるよ」など観光に関するアイデアをお待ちしています。楽しいプランを一緒につくりませんか?

● **新しい可能性を生み出す商品開発**

地域の生産者・事業者・企業を繋げて、新しいお土産や特産品の開発に取り組むための橋渡しをしています。

PICK UP! オリジナルツアーの協力を募集します

地域資源を活用した体験プログラム作成や市内を周遊するバスツアーの企画・販売などの業務を行っています。

バスツアーでは観る観光だけでなく、実際にその地域の物や人に触れながら楽しんでもらえるよう体験型観光をコンセプトにツアーを企画。ツアーを重ね、少しずつリーダーが増え、地域の魅力を知ってもらえる機会も増えていきます。

「こんなツアーが楽しそう!」「私の所でこんな体験できるよ」など観光に関するアイデアをお待ちしています。楽しいプランを一緒につくりませんか?



通販サイト
QRコード

まちづくり事業部

小林市をよりよくするためまちづくりに全集中



KITTO 小林を活用したイベントの様子

● **施設を活用してまちの活性化を図る**

自社の複合施設『TENAMUビル』や、管理を受託している駅前の『KITTO小林』を活用して、観光と交通、中心市街地の活性化を図ります。

TENAMUビルの2階には小さな子どもが遊べるスペースや、読書など自由に楽しめる空間があります。また、KITTO小林の2階には貸しスペースがあり、こちらはイベントから会議まで幅広い利用が可能です。

小林まちづくり株式会社でもこれらを活用して、地域と企業の間をつなぐことができるイベント



市公認の通販サイト



統括部長
木村 洋文 さん

トなども積極的にを行っています。

● **地場産品を市内外へPR市公認通販サイト**

市公認の通販サイト『ンダモシタンマルシェ』の管理や、ふるさと納税のお問い合わせセンター業務も行っています。市内の魅力ある産品を、多くの人に知ってもらえるような宣伝活動のほか、新規出品の受け付けも行っています。

PICK UP! 市公認通販サイトでは楽しい企画を展開



まちづくり事業部
児玉 友紀 さん

昨年6月に市公認通販サイト「ンダモシタンマルシェ」を開設しました。このサイトでは、小林の地域ブランドと地場産品を多くの人に知ってもらい、購入していただくため、魅力ある商品を掲載することで小林市の認知向上と地域経済の振興を図る取り組みをしています。

4月から母の日限定ギフトとして、カーネーションや名入れグラス、ポップコーンのセットを数量限定で販売します。送料無料キャンペーンも同時開催しますので、ぜひチェックしてみてください。

いろいろな取り組みの積み重ねが 小林的魅力創出につながる

市の活性化を願う市民の 想いでつくられた民間会社

中核的商業施設の跡地は中心市街地のシンボリックな場所であったため、まずはここを再開発することが足がかりになると考え、まちづくり株式会社をつくりました。

会社の設立にあたって、同じ想いを持った同志を集めるため出資を募りました。「利益は株主への配当ではなく、まちづくりの再投資を行う」という条件にもかかわらず、多くの方から賛同いただきました。出資の96%は個人・民間の方からの出資ということは、裏をかえせばそれだけ多くの方が現状に危機感を持ち、市の活性化への想いを小林まちづくり株式会社へ託されたと感じています。

げていく取り組みを行っています。それは周辺に新しい飲食店ができるなど、良い方向に変わってきています。また、空き店舗の活用についても、地主と事業者を繋げるような活動を積極的にしています。

広い地域・多くの業種の 役に立つ会社を目指す

「中心市街地のための会社」と思われがちですが、私たちは中心市街地から始めて、須木・野尻地区を含めた市全体の活性化を目指した会社です。

事務局として活動する観光DMOなどは、外から人を呼び市内各地で農産品を消費してもらい、経済波及を促す取り組みです。また、農畜産業など裾野の広い産業に対しても、商品開発や市公認通販サイトの運営などを通して役立てる活動をしていくこと

最大の強みである「人」と 「自然」を活かす取り組み

「何も無く、自然だけが多い小林」と言う方もいますが、外から見るとそれが魅力です。コロナ禍で生活様式が見直されている今、ワーケーションなどの需要をしっかりと取り込むための検証も進めています。

なにより市内各地でまちづくりに取り組み団体や個人のみならず、私たちの活動を理解し、積極

的に協力いただいています。これは他の市町村には無い強みだと自負しています。

今後は、これらの強みを活かしつつ、民間企業として一つひとつの事業結果にこだわり、あわせて情報発信強化にも会社全体で取り組んでいきます。

人口減少をゆるやかにするためにも、市内に活気と魅力が必要で、そのための方策を、個人・民間企業・行政と一緒に取り組み、積み重ね、まちづくりの一翼を担う会社として、さらなる成長を目指してまいります。

ふとした相談から新商品を 一緒に作りました

自社商品の活用を相談したところ、(株)東京ミレニアムさんとのコラボ新商品の提案があり、商品化してみると大好評。自分では考えもしなかった提案だったので、製品化・販売のノウハウ・人脈に感心しました。



(有)ダイワファーム
代表取締役
大窪和利さん

交流スペースの落ち着いた 雰囲気が好きです

学校や部活後、電車を待つために、TENAMUビル2階の交流スペースや1階のスーパーをよく利用しています。静かな環境で勉強などにも集中できます。駅近くにあり、遅くまで利用できるのので助かっています。



TENAMUビル
利用者 高校2年
二見そよかさん

まちの Voice

こばまちの活動を知る人
などまちの人の声を紹介

一緒に中心市街地を盛り 上げていきたい

コロナ禍にいち早くホームページでテイクアウトを掲載したり、中心市街地でイベントを開催する取り組みはありがたいです。これからも中心市街地の人通りが多くなるよう、一緒にがんばっていききたいです。



代表
定食屋ごはんや
吉留裕さん

県外から誘客の協力 市内への周遊を支援

ポピーやコスモスイメント時のチラシを、こばまち、市観光協会と協力して作成しています。今後も、生駒高原から市内へ周遊したくなるような取り組みなどに協力し、一緒に観光地を盛り上げていきたいです。



花の駅 生駒高原
店長
廣澤和洋さん



唐山窯
窯元
川路唐山さん

こばまちを通して広がる 人とのつながり

体験ツアーの相談を受けたのがきっかけ。以降もこばまちと一緒に活動する中で、販路拡大のサポートだけでなく、地元の方との新しいつながりが増えました。一緒に働くことが楽しみです。



小林まちづくり株式会社

〒886-0008
所在地 小林市本町16

TEL 27-3280
FAX 27-3257

E-mail kobamachil@road.ocn.ne.jp

営業時間 9時～17時
店休日 土曜・日曜・祝日

情報発信中

・ホームページ
<https://kobayashi-machi.com>



ホームページでは市公認通販サイトやテイクアウト料理の飲食店などを掲載中

・フェイスブック ・インスタグラム





小林まちづくり株式会社
代表取締役社長 **柘崎 庄二さん**

1962年生れ、小林市出身。大学卒業後、バックパッカーとして世界一周した後帰郷、28歳で(株)宮崎ツアーサービスを起業。現在はグループ8社1400人以上の社員を抱える『ひいらぎホールディングス(株)』の代表取締役会長兼社長を務める。